

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市栗生児童館		
2 指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団		
3 指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日		
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和4年度 20,559人(前年度比 91.4%) 令和3年度 22,483人 令和2年度 18,650人		
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業		
5 収支の状況	《費用》 ( )は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 41,198千円 (49,529千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)		
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)		
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館運営懇談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。		

## 二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した丁寧な育成支援に努めている。また、乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、子育て支援クラブをはじめとする地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。	18/18

### 三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》
<p>地域との交流活動を通して、子ども達が自分の地域を知り、周りの人々に支えられて育っていることを実感できるような行事を模索し実施してきました。</p> <p>『歴史たんけん隊』では、五郎八姫に関連のある西館跡、薬師堂、鬼子母神堂を、『落合栗生地区歴史めぐり運営委員会』の皆さんと一緒に歩き、講話をしていただきました。参加した子ども達は、熱心に話を聞いていました。また、親子で参加する家庭もあり、地域の歴史への関心の高さがうかがえました。より多くの方に地域を知っていただくためにも、毎年継続して開催していきたい行事の一つです。</p> <p>『デリバリー児童館』では、落合東町内会館を会場にプラバン作りを楽しみました。普段、行事に参加しない子ども達も、自宅から近い場所での開催に、誘い合って参加する姿が見られました。これからも児童館の行事に気軽に参加できる機会を作っていきたいと考えています。</p> <p>すくすくひろば『保健師・栄養士さんと話そう』では、乳幼児の保護者に向けて、発達段階に応じた講話をしていただきました。参加者が、離乳食に関して積極的に質問する場面も見られ、とても内容の濃い活動となりました。今後も、地域の相談機関を積極的に活用し、育児の不安や疑問を解消できる場を提供していきたいと思えます。</p> <p>また、毎年好評の「ママはカメラマン」は、2回シリーズで開催しました。地域のカメラマンを講師にお迎えし、今しか撮れない子どもの表情を、写真に残すテクニックを教えてくださいました。参加した保護者は、我が子にカメラを向けての活動に、終始、笑顔が絶えませんでした。</p> <p>乳幼児親子や小学生の自由来館の利用も増えています。今後も地域との結びつきを大切にしながら、児童館としての役割を果たしていくように努めていきます。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>児童健全育成事業においては、利用者の「体を動かす活動を取り入れて欲しい」という要望を受け学校の体育館で講師を招き「動いてあそぼう」を企画し子ども達の心身の健康増進に努めた。また小学生の自由来館は継続した利用があり、行事の企画を行う等、地域における子どもの居場所としての役割を担っている。また、宮城地区社会福祉協議会主催の地域の高齢者向けの催しである「いこいの家」への訪問再開に向けてマジッククラブを立ち上げ地域の方の指導を受けて発表に向けて活動した。訪問は叶わなかったが子ども達の遊びへの意欲を引き出し、できた自信や自己肯定感を育む取り組みとなった。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、令和4年度から年間通した参加者同士の交流と職員とのより深い繋がりをねらいに登録制の幼児クラブを立ち上げた。参加者から子どもの成長をより実感でき子育てに前向きになれたと好評を得ている。また職員の手遊びやアスレチック等の大型おもちゃで遊べる場を週に2回提供することで利用者が増えており、地域の子育て家庭支援の場としての役割を十分果たしている。</p> <p>地域交流推進事業においては、広瀬高校の奉仕活動部が週3回ボランティアで来館し遊びを通して小学生と交流した。この取り組みをきっかけに自由来館や行事参加等、高校生の定期的な児童館利用促進に努めている。また地域の方の協力を得て小学生親子が史跡めぐりを通して交流し地域の歴史の深さを知る貴重な機会を提供した。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、愛子交番の警察官を招いて1・2年生を対象に登下館の歩き方等の安全指導を行い、子どもの安全面に配慮している。また日常的に個別に丁寧な関わりを心掛け、子どもの思いやアイデアを否定せず実現に向けて一緒に取り組み、できた自信が活動への意欲を高めている。</p>	S

### 四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課